



日本人の名前が付いている病気を知っていますか？

今月のトップ記事はそんな病気の名称に関する内科 村越医師の記事です。

病気の名称



内科部長
村越 医師

新型コロナウイルス感染症は、2019年末に中国の武漢で初めての発生が確認されたため当初「武漢肺炎」などと呼ばれていましたが、地名や人名・動物名を感染症名に用いないというWHOのガイドラインに基づいて、その後COVID-19(CORONA Virus Disease 2019)と正式名称が決められました。このガイドラインが設定されたのは2015年とのことですが、医学領域ではこれまで多くの病名に報告者の名前が付けられ、その先駆的な功績を称えてきました。皆さんもおそらく聞いたことがあると思われるアルツハイマー病やバセドウ病はその代表的なもので、日本人の名前が付けられている川崎病や、橋本病、高安(たかやす)大動脈炎といった疾患名も世界中で広く用いられています。

川崎病は、全身の血管の炎症により発熱、発疹、手足・リンパ節の腫れ、白目の充血、唇や舌の発赤などの多彩な症状が出現する疾患で、東アジアに多く、原因は未だ特定されていません。発症するのは主に4歳以下の乳幼児であるため、小児科以外で診察する機会はまれですが、心臓の後遺症として冠動脈瘤を形成し、狭心症や心筋梗塞の原因となって内科や循環器科での診察・治療が必要となる場合があります。最近、欧米で新型コロナウイルスに感染した子供に川崎病と似た症状がみられるという報告が相次ぎ、発症にコロナウイルスが関与しているのではないかと注目を集めました。しかし患者の年齢分布や人種構成は異なっており、日本では小児のCOVID-19は軽症で、欧米のような重症例は報告されていないことや、新型コロナウイルス感染が拡大しているにもかかわらず、川崎病の発症状況や重症度は例年と比べて変化しないことなどから、日本の学会は両者の関連性について注視が必要としながらも慎重な見方をしています。

最初にこの疾患が報告されてから半世紀を過ぎた今日、これまでの研究調査の結果に基づいた治療法の開発によって重篤な後遺症の合併率は低下しましたが、少子化が進む中でも患者数は昨年の調査で過去最高を記録しています。発見者である小児科医の川崎富作先生は本年6月に逝去されましたが、先生の志が受け継がれ、近い将来には病因が究明されて予防法が確立されることを願ってやみません。

引き続き熱中症対策を行い、
残暑を乗り切りましょう！



「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

- 夏期の気温・湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。このため屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合には、熱中症のリスクを考慮し、マスクをはずすようにしましょう。
※屋内運動施設での運動は、新型コロナウイルス感染症のクラスター(集団感染)のリスクが高いことから、お住まいの自治体の情報に従いましょう。
- マスクを着用している場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心掛けるようにしましょう。また、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、適宜、マスクをはずして休憩することも必要です。
- 新型コロナウイルス感染症を予防するためには、冷房時でも換気扇や窓開放によって換気を確保する必要があります。この場合、室内温度が高くなるので、熱中症予防のためにエアコンの温度設定をこまめに調整しましょう。
- 日頃の体温測定、健康チェックは、新型コロナウイルス感染症だけでなく、熱中症を予防する上でも有効です。体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅で静養するようにしましょう。
- 3密(密集、密接、密閉)を避けつつも、熱中症になりやすい高齢者、子ども、障害者への目配り、声掛けをするようにしましょう。



～厚生労働省HPより～

初登場！
地域医療連携室★

医療の豆知識 ～地域医療連携室のご紹介、医療福祉相談について～

1. 地域医療連携室について

地域医療連携室とは地域の医療機関や施設との連絡窓口です。地域で患者さまに切れ目ない医療・看護・介護サービスを提供できるように支援・調整をしています。大きくは前方支援と後方支援に分かれており、前方支援で医療機関からの転院や入院相談、患者さまに関する医療機関等からの問い合わせ対応や広報活動などを行っています。後方支援は医療福祉相談として、患者さまやご家族さまの様々なご相談をお受けしています。

2. 医療福祉相談について

病気や怪我によって、これまでと同じ生活を送ることが難しい方もいらっしゃいます。「介護が必要になった」「経済面が心配」「通院が大変、訪問診療を受けたい」等々。そんな時、医療ソーシャルワーカーは院内のスタッフや、地域の支援者と連携を図り、お身体の状態や年齢・生活背景に応じ利用できる公的・民間サービスを検討し、ご紹介します。ご希望や必要に応じ、施設や医療機関にお繋ぎすることもあります。

例えば、介護サービスが必要な方には介護保険をご説明し、地域の相談窓口である地域包括支援センター等をご紹介します。そしてその方らしい生活を送る方法を患者さまやご家族さまと一緒に考え、調整していきます。

また身体障害者手帳など障害福祉サービスや、指定難病医療費助成など公費負担の対象となる方には、主治医と相談の上手続き方法やメリットについてご説明しております。

病気や怪我からくる生活上の困りごとがある際は、主治医や看護師、1階受付へお声掛けください。医療ソーシャルワーカーが面談やお電話にて対応致します。

【地域医療連携室 医療ソーシャルワーカー 菅井 若奈】

JR 仙台病院 火災総合訓練

8月4日にJR仙台病院で火災総合訓練を行いました。参加者は3班に分かれ、それぞれの場所で「消火器の使用手順や消火訓練」「ストレッチャーの取り扱い訓練」「火災発見時の対処方や非常扉の開放方法、非常階段通行時の注意事項」などを学びました。

いざという時に自分はどう行動すべきか考え、防火の重要性を改めて学ぶ訓練となりました。



感染対策研修会

院内スタッフを対象に感染対策研修会を行いました。例年ですと講義や実技を交えて研修を行いますが、感染症対策のため今回はeラーニングを活用し、医療従事者に必須な感染対策の基礎学習を行いました。

スタンダードプリコーション（標準予防策）と手指衛生を中心とした感染経路別予防策について改めて理解を深めました。



My Message2020 社員意見発表会

「My Message2020」とは、JR東日本グループの社員としてふさわしいマインドの継承及び相互啓発を目的として、自らの考えや将来に向けた抱負等をメッセージとして自分の言葉で表現するものです。今年度のテーマは、「私が描く『夢』～実現するためのキャリアビジョン」です。JR仙台支社の各箇所より16名の参加があり、当院からは「看護師の佐藤愛珠さん、衛生試験室の高橋佳奈さん、臨床心理士の富田悠斗さん」3名が出演し、堂々とした発表を行いました。

富田さんは代表2名に選ばれ、10月に開催される支社大会へ出場します。傍聴者からは、「参加者の皆さんの熱いメッセージを聞いて、今後のキャリアビジョンを具体的に考える良いきっかけとなりました」と感想がありました。

昨年、院内ケアで作成した七夕の作品をエントランスに飾りました。

今年は仙台の七夕まつりが中止となってしまったため、来院された皆さまに少しでも七夕の時期が来たことを感じていただけたのではないのでしょうか。

来年は安心して楽しめる七夕まつりが開催されてほしいですね。



理念

高度で良質な医療と心のこもった患者サービスで地域社会に貢献し、調和のとれた企業立病院をめざします。

院 是
調 和